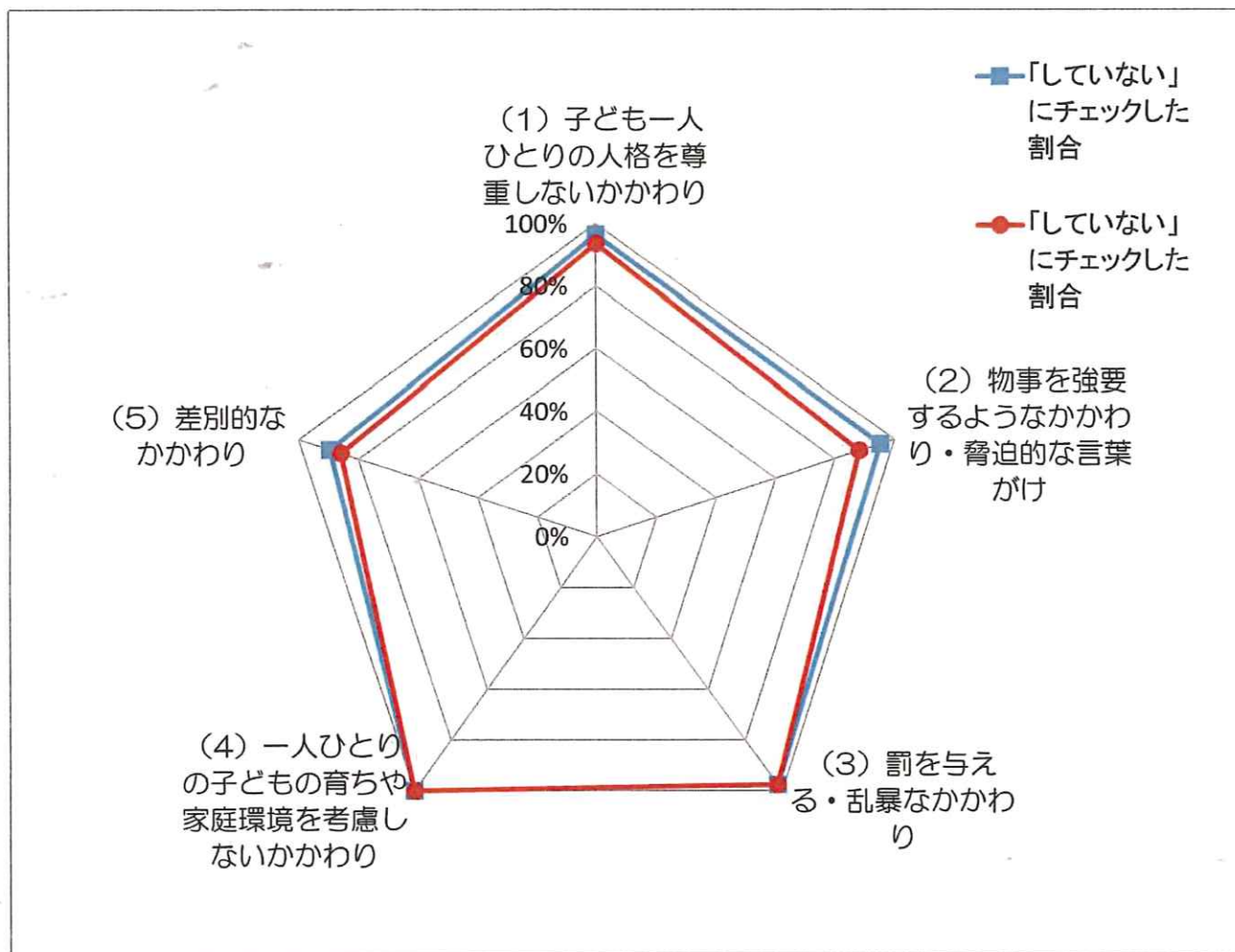


※本チェックリストは、自らが意識をせずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合で進める保育」を行っていないか保育者一人ひとりが自己点検するためのツールです。日々の保育の質の向上につなげることを目的としており、人事考課の要素として利用することを想定して作成したものではありません。

実施日 2月 26日

レーダーチャート ※輪の大きさが大きいほど、「良いかかわり」が達成できています。

1回目の結果が青い輪、2回目の結果が赤い輪で表示されます。



◎1回目と2回目の結果を比較して、施設の保育がどのように変わったと感じますか。また、子どもの人権を尊重した保育をいっそう行うために、今後自らおよび施設としてどのように保育に取り組むことが必要だと考えますか。自らの結果の変化も踏まえながら、記入してください。

・今年是不適切な保育について園内研修で学ぶ機会があり、職員一人ひとりが改めて自分自身の保育を見直していったことから、1回目と2回目を比較すると、2回目の方が評価が低くなる結果となった。特に(2)物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけの部分に著しくその結果が表れていた。だが、保育内容に目を向けてみると、それぞれの保育内容を見直して、子どもの気持ちを考えて声掛けを意識したり、接する時の態度や声のトーンまでも気を付けている姿が見られていたと感じる。園内研修で学んできた結果が、自身を振り返る際の指標にも繋がってきていたと感じる。今後も園内研修を通して、職員全体で保育を見直していくことで、意識の向上を目指していきたいと思う。